

道徳的雙子地球は道徳的実在論の反論たりえるか

土持貴志 (Takashi Tsuchimochi)

九州大学大学院人文科学府人文基礎専攻博士後期課程

本発表の目的は、Geirsson(2014)の議論が誤りであることを示し、Horgan & Timmons の道徳的雙子地球の思考実験が、道徳的実在論に対する健全な反論であることを示すことである。

Boyd(1988)は、Putnam の自然種名についての指示の因果説が、道徳語にも拡張可能であると主張して、新たな道徳的実在論を論じた。Boyd の議論に対し、Horgan & Timmons(1991)が Putnam の雙子地球に擬えた道徳的雙子地球の思考実験を提出し、反論を行った。彼らの反論は次の通りである。仮に、Boyd の議論が健全であるならば、自然種名についての雙子地球と、道徳語についての道徳的雙子地球からは同様の帰結が得られなければならない。しかし、2 つの思考実験からは異なる帰結が得られる。ゆえに、Boyd の議論は誤りである。

Geirsson は、Horgan & Timmons の議論は誤った前提に基づいた不健全な議論であり、道徳的実在論への反論に成功していないと論じる。彼によれば、Putnam の雙子地球では、想定より地球の「水」は H_2O を指示し、雙子地球の「水」は XYZ を指示する異なる語であるということが直接直観される。一方で、Horgan & Timmons の道徳的雙子地球では、地球人と道徳的雙子地球人が仮に遭遇した際に「善い」を使用した議論を行ったとすれば、その議論における不一致は真正なる道徳的不一致であるという直観から、地球の「善い」と道徳的雙子地球の「善い」が同じ語であることが推論されている。この推論を、Geirsson は「不一致からの議論」と呼ぶ。彼によれば、この議論が不健全であるのは、Horgan & Timmons が持つ「2 つの語の指示対象が同一であれば、その語を使用した議論における不一致は真正なる不一致である、あるいは、2 つの語の指示対象が異なるならば、その語を使用した議論における不一致は真正なる不一致ではない、のどちらか一方に限られる」という前提が誤りであるためである。

Geirsson は語の指示を、意味論的意味と話し手の意味の 2 つに区別する。意味論的意味とはその語の実際の指示対象であり、話し手の意味とはその語がそれを指示するために使用される対象である。この区別の導入によって、2 つの語の意味論的意味が異なっているととしても、その語を使用した議論における不一致が真正なる不一致であるためには、話し手の意味が同一であれば十分であることが指摘される。それゆえ、Horgan & Timmons の不一致からの議論の前提は誤りである、と主張される。

本発表では、Geirsson が主張した話し手の意味が同一である場合のその語を使用した議論における不一致と、Horgan & Timmons が主張した地球人と道徳的雙子地球人間の「善い」を使用した議論における不一致はその性質を異にすることを指摘し、Geirsson の議論は誤りであり、ゆえに道徳的雙子地球は道徳的実在論への反論に成功していると主張する。そして、真正なる道徳的不一致を基礎とする道徳的雙子地球の

思考実験が、道徳的な対立が不可能であるという問題を解決した新たなメタ倫理的
非認知主義の構築を可能にするということを論じる。

参考文献

- Boyd, Richard N. "How to be a moral realist." *Contemporary Materialism* (1988): 307.
- Geirsson, Heimir. "Moral twin-earth and semantic moral realism." *Erkenntnis* 62.3
(2005): 353-378.
- Geirsson, Heimir. "Moral Twin Earth, Intuitions, and Kind Terms" *Croatian Journal of
Philosophy* 40 (2014): 91.110
- Horgan, Terence, and Mark Timmons. "New wave moral realism meets moral twin
earth." *Journal of Philosophical Research* 16 (1991): 447-465.
- Horgan, Terence, and Mark Timmons. "Troubles on moral twin earth: Moral queerness
revived." *Synthese* 92.2 (1992a): 221-260.
- Horgan, Terence, and Mark Timmons. "Troubles for new wave moral semantics: the
'open question argument' revived." *Philosophical Papers* 21.3 (1992b): 153-175.
- Putnam, Hilary. "The meaning of 'meaning'." *Philosophical papers* 2 (1975).